

ソフトボール連勝！

6月22日に、川辺小・岡田小連合チームと対戦し勝利！。6月27日の二回戦は、玉島西中チームと対戦し勝利した！！。我が船穂中・柳井原小・穂井田小・船穂小連合チームは、投手が神嶋教頭、川中教頭の二枚看板で、二回戦は、3回までは出塁を許さない完全試合だった。野球ではめずらしくないが、墨間の短いソフトボールでは、内野ゴロをすべてアウトにすることは結構むずかしい。キャッチャー長田先生をはじめ野球の経験者が多いこともあって、鉄壁の守りと言える。

試合前、練習をしていて、川中教頭が、「ボールに指を三本かけると痛いだよ。」と不調を口にして。「なら、二本がけで投げたらどう。」と神嶋教頭。畑中校長は、「教頭さん、手が痛い。腰が痛いと学校で言っていたから、無理しないでほしいんだけどなあ。」と不安顔。しかし、試合が始まると川中教頭絶好調。堅い守備にも気をよくして打撃も好調。ヒットを打った川中教頭に、畑中校長「走るな！走るな！」と声をかける。畑中校長の心配をよそに、川中教頭は5回を一人で投げ切った。

普段は、千賀教頭から指導を受けでしょぼくれていることもある塚越先生や井上先生も生き生きとプレーしている。金平先生に至っては楽しくて仕方がないといった様子で、ショートを守備なのだけでも、子犬がはしゃいでボールを追いかけるようにすばしっこく駆け回り、レフトの球もセカンドの球も見事に処理する。

わたしと千賀教頭は応援をしているが、しくじれば味方の選手をやじっている。選手にとってはやっかいな応援団だ。大月校長、畑中校長、三宅校長をはじめ、仕事の都合をつけて大勢の先生が応援に来てくれたことがとてもうれしかった。小学校間の連携や小学校・中学校間の連携が求められている。「ソフトボールを通じて、これだけ多くの先生が集まって試合に熱中していることは、生徒指導上の問題で連携しなくてはならなくなった時に、大きな力になりますよ。」と神嶋教頭が試合後うれしそうに話していたが、そのとおりだと思った。

これほど強い選手が集まると、あまり得手でない人は参加しづらくなる。おれたちは関係ないからという空気も生まれる。けれども、我チームはそんなことはない。穂井田小の松本先生、船穂中の小笠原先生、森先生は代打の1打席にかけている。窪山先生は、県教育センターの出張から急いで駆け付けセカンドの守備についた。穂井田小の赤木先生は「ぼくは出ませんよ。」と言いながらも体操服で来ている。出る気はないけれども、もし選手が足りなかったらという気遣いが彼らしくてうれしかった。

次の対戦相手は、真備中・箭田小・呉妹小・二万小連合チーム。昨年、4点をリードしながら、まさかのトリプルプレーで好機を逸し、試合の流れが変わってサヨナラ負けを喫した相手だ。

我がチームは、昨年に比べて投手力、守備力、攻撃力ともに飛躍的に向上しているから、きっと勝ってくれると信じている。次の試合が楽しみだ。

